

法勝寺一式飾り

毎年第二土・日に法勝寺区内で行われる一式飾り。今年は4月8日・9日に行われ、法勝寺川沿いから法勝寺城跡へと続く桜並木の開花の時期とも重なり、多くの人で賑わいました。今年には干支の戌や冬季オリンピックの金メダリスト荒川静香選手等を題材にした飾り25点が訪れた人を楽しませました。

一式飾りとは、古くから法勝寺地区内で佐義長（とんど）の行事として行われていた伝統的な民衆芸能で、昭和43年からは桜の開花と祭りに合わせて行われるようになり、町の指定無形文化財にも指定されています。

「一式」の名前のとおり、日用品の中から漆器ならば漆器のみ、竹細工ならば竹細工のみの素材を使って飾り物を作成します。素材を壊したり、傷つけたりしないことも重要な約束事で、飾りに使った素材はそのまま使えるように返すのが鉄則です。

ト荒川静香選手、竹製品一式、帯、漆器など様々な銀盤の女王を見ることできました。一式飾り開催期間は、天気の崩れが心配されていましたが、天候にも恵まれ、多くの見物客が法勝寺に訪れ、併せて行われた公民館・図書館さくらまつりの地場産品の即売やフリーマーケットなどの催しも盛況でした。

初めて。想像していたよりもずっと大きなイベントで、飾りも工夫が凝らされておりびっくりでした。川土手の桜も若い桜かと思っていたが、古い桜で枝も立派でよかった」と話しておられました。一式飾りは期間が終わるとすぐに解体されますが、毎年2つの飾りが法勝寺公会堂に常設展示されます。今年「流鏝馬」と「忠犬八千公」が、4月下旬から展示されています。



今年一番人気のトリノ五輪金メダリスト、荒川静香選手



山内一豊の妻 千代（漆器）



カラフルな錦鶏鳥に見入る見物客



干支にちなんだ闘犬



まごころ市も盛況



土手の桜も満開でした